



あおもり 町連だより

第217号

発行責任者

齊藤裕一郎

青森市町会連合会

TEL 017(734)2584

FAX 017(734)2587

「しかるべき所にしかるべき人がいないと組織が持たない」—この言葉を自問自答し65年の歴史ある青森市町会連合会第9代会長として所信の一端を述べて見たいと思う。

市町連の存在と現状

指導・調整役として町会活動活性化を支援し、安心安全で住みよい環境づくりに努める事に尽きると思う。だが今の市町会連合会はそれに対応するだけの方策が出来るだろうか。よく「単位町会のみまでも、何も困らない」と聞く。何か組織に足りないものがないだろうか、考えて見たい。

る②広報委員には現行の副部会長に加え部会長を任命、拡充する。また事務局長を広報委員長に任命する



齊藤新会長が所感

会の見直し積極的に

情報発信に注力

会の民主的運営と情報の共有
会長立候補にあたって「会の運営」と「情報の在り方」について触れた。「運営」については少数意見も尊重するプロセスに重きを置き、「情報」については一部の者だけに限らず「開示」して「共有」「発信」したいと思う。マスクも例外でなく、大いに地域の情報を提供したい。

広報委員会の設置

①情報の共有と発信の重要性に鑑み、広報委員会を設置する。企画・編集には新たに専門的知見のある方を委嘱す

市町連の財政について

財政は盤石なのだろうか。令和元年度の単年度収支決算(前期繰越金を除く)で見ると約100万円も赤字になっている。会費収入の大幅減少

平成17年度には約970万円の収入があった会費は、令和2年度で約80万円も減少している。

検討委立ち上げ

組織と財政運営等を検討する「検討委員会」の立ち上げ

①事務局体制について②市町連会計の現状について③市町連役員の活動手当(役員手当)等について一常任理事以上の役員会で検討し年度内に結論づける④平成19年度に設置された「組織・財政を見直す検討委員会」の記録なども検証したい。

市連合町会会長は常勤か非常勤か、皆で方向性を考えて見よう。

事業への取組

地域と連携密着した事業の取組

①子供ねぶた(地域ねぶた)に市町連独自の「子供ねぶた大賞(仮称)」を創設②市民図書館と連携した地域啓発一周年記念事業(足跡事業)への取組

③70周年(令和7:2025年)記念誌発行④既刊記念誌(創立10年、20年、30年、40年、50年)版の復刻版もしくはダイジェスト版の刊行⑤事務局資料の保管と補完体制の確立—以上、基本的方向性に触れましたが各位の活発なる討議を期待いたします。

紙面紹介

- 2・3面 除排雪事業に関し市と意見交換会
- 4面 町連組織、財政等の検討委女性部研修会
特別ねぶたに10万円支援
- 5面 新任町会長研修

- 5面 市交通安全功労者表彰
- 6面 消防功労で叙勲
市表彰に町会長5人
松原町会が創立80周年
幸畑まちづくり協が青大祭に出展

的確な除排雪対応を要請

市町連が市と初の意見交換会

除排雪事業に関する意見交換会を2020年9月29日に沖館市民センターで開催しました。これは、町会にとって最も深刻な「雪問題」について、来年度の市の事業計画に向けて、率直に町会の声を伝え意見交換する場として、町会連合会から要請、初めて開催されました。

意見交換会には市から都市整備部高村理事ほか3名、町会連合会から会長、副会長、常任理事が出席。

除排雪予算、融・流雪溝の整備、通学路の除排雪、寄せ雪対策、除排雪時の積み込み場所の分散、市民を入れた雪対策全般に関する検討会議の設置などの意見がありました。

主な内容は次のとおり。

過去5年程度の除排雪予算額と内訳は？

(野呂龍一副会長)

(回答) 小田雪対策室長

平成28年度から令和2年度の予算額は、24～25億円で推移している。内訳は主に委託料が占めている。ほかに、市民雪寄せ場の看板設置や、貸与機械の維持管理費、ハンドガイドの管理費などがある。

ここ数年として、予算的には小さいが、除雪ボランティア、スマートシティ関連に力を入れている。

※スマートシティ…都市が抱える諸問題を解決するため、ICT(情報通信技術)等の新技術を活用したより効率的で快適な都市

融・流雪溝の整備について、整備の完結にはどれくら

いかかるのか

(加藤恒雄副会長)

(回答) 高村理事

水源があること、流れていく勾配があること、流すことができる流末があることを条件に調査し、有望な15地区が設定され、整備に取り組んでいる。うち8地区は整備を終え、供用している。佃地区は

して進めていく。

高齢者にやさしい除排雪と通学路の確保、市民を入れた「雪の検討会」の開催を求める

(神保修平副会長)

中部1区地区は、高齢者が多い住宅密集地である。雪捨て場までかなりの距離があり、長い距離を運んで流雪溝に流している。除排雪は道路の真ん中だけで、脇には雪を残していく。以前から要望しているが、膝までなら残していいような回答だった。玄関も塞いで何十メートルも雪を



市に除排雪について意見を述べる町連役員

整備中で、昨年篠田地区の調査を始めた。これらの融・流雪溝の予算は、除排雪予算とは別になっている。

佃地区は来年使えるようになるかもしれない状態。残りの5地区はいつから着手するのかわからない。供用する融・流雪溝を管理する組合が必要で、その組織作りも並行

残している。高齢者に過重な負担を強いており、高齢者に優しい除排雪をお願いする。

(回答) 小田室長

機械除雪による作業上、どうしても残ってしまう部分があり、膝下までの雪については協力をお願いしている。調整会議を通して、高齢者で構成される世帯については情報

を業者と共有し、寄せ雪を軽減する体制としているので、情報提供いただきたい。

(神保修平副会長)

通学路確保のため、PTAが活動している。特に堤小学校では長年活動が続いている会があり、広まってほしいと思っている。ただ、歩道と車道の区別がつかない状態になる通学路がある。このような

状態を解消する対策を要望したい。学校や父兄や、市や業者も入った対策を話し合う場が必要。他にも、市民を入れた雪対策全般について検討する検討会も設置、開催について、考えを聞きたい。

(回答)小田室長

通学路については、通常の歩道除雪ができない部分もある。幹線の排雪時に合わせて歩道除

雪をしている。教育委員会からの小型除雪機の貸与を活用していると思われるが、別に市で貸し出している小型除雪機もあるので、活用していただければ幹線の排雪よりこまめな整備が可能となると思われる。

市民全体で雪対策を考える会は現在はないが、事業者と

の意見交換会や、町会との意見交換を通して実施計画の策定を参考にしており、設置は考えてはいない。当面はこの形で進めていきたい。

積込場所を分散できないか
(松本勝義副会長)

最近雪を押す空地もなく、排雪をセットする必要はある。業者は作業しやすいように固定の交差点を利用し、雪の積込場所として使っていて、付近の住民が眠れずに困っている。分散することはできないのだろうか。毎年要望しているが、改善されず、住民からも頻繁に声が上がっている。

(回答)小田室長

雪の積み込みは、ダンプとセットで行う必要があるためどうしても交差点を使うことにはなるが、作業の分散については検討できるものと思われる。

市は具体的な改善策を
(佐々木重光常任理事)

調整会議で、金沢生協の脇の通りの歩道も子供たちが車道を歩く状況になり、毎年相談しているが、善処しますという回答で変わらない。

他にも、万太郎堰や浪館通りから三内通りへ抜ける交差点も要望しても一向に改善されない状態となっている。真剣に対応してもらわないと何のための調整会議かわからないものとなっている。

金沢通りの流雪溝にみんな雪を捨てているが、水が流れていない。毎年要望しているが、水利権の関係で相談してください—とのことで毎年終わってしまう。

また、元の農業用水路が整備されているが、屋根雪の落下で詰まってしまう。相談してもパトロールします、で終わってしまっている。

毎年改善されずにいるため半分諦めの声も出ている。行動を起こしてもらいたい。

(回答)小田室長

基本的には現地確認して対応するしかない。現地確認はしているが、排雪も毎回できればいいが、費用の兼ね合いも見ながら出すことになる。

意見交換していい方向に
(齊藤裕一郎会長)

毎回善処するといいいながら同じような状態が続いているということで、地域の人にとっては大変悲痛な問題である。機械を貸せば済むという話ではない。その辺のことを責めるのではなく、意見交換していい方向にもっていかないといけない。いつまでも解決しないのであれば会議を開く必要性がないのではないかとということになる。

(回答)高村理事

わたし自身は、5年以上パトロールしているが、苦情のあったところはすべて行っている。ただ、通報者との立ち合いはすべてし切れない。立ち合い希望があれば立ち合いもしている。屋根雪の話もよくあるが、雪止めの設置や屋根の作り方については違法にはならないが、雪が落ちて水害になれば所有者の責任になる。そういう事態への声かけは町会長も同行していただき地域の問題としてとらえてもらうなど協力をお願いしたい。

雪対策検討会議の設置も

高齢者・学童に配慮を

組織・財政を検証へ 町連の検討委スタート

スタートした検討委



町会連合会の組織と財政運営等を検討する「検討委員会」の第1回会議を2020年11

月9日に開催しました。この委員会は、会長、副会長、常任理事をメンバーとし、町会連合会が今後も持続して役割を果たしていく

ため、組織と財政の課題について話し合い、対応策を検討します。

第1回会議では、これまでの町会連合会の収入と支出の状況、市の補助金・委託費の推移のほか職員給与などについて、資料により現状を確認したほか、平成19年度に行われた「町会連合会のあり方検討」の検討結果を検証しました。委員からは、会長の職務と勤務形態、事務局体制、役員の活動手当などについて意見が出され、財政状況を含めて、今後話し合いをしていきます。

検討委員会は、今年度中に、4～5回の会議を行い、結論を取りまとめる予定です。

協働で地域づくりを 町連女性部研修会

町会の女性部役員を対象にした町会連合会女性部（葛西房子部会長）の研修会が2020年10月13日午後1時半から、アピオあおもりで開かれました。この日は対象者113人の内、56人が参加、齊藤裕一郎連合町会長があいさつ、青森市市民協働推進課の小野寺一歴（かずゆき）主事が「市民協働によるまちづくり」と題して講演しました。

小野寺主事は2019年における青森市の町会加入率は70.6%で、ここ9年間で5ポイント弱低下していると指摘。一方で地域課題は、自然災害の頻発、環境保全問題、人口減少・高齢化問題、一人暮らし高齢世帯の増加、地域活力の低下など、多様化・複雑化している現状を説明。問題解決



小野寺主事の講演を聴く
女性部役員

には市と地域住民との協働が必要であり、市と町会をはじめとする地域住民とが一緒に考え、計画を共有し、協働して地域の個性を生かしたまちづくりを進めましょと、呼びかけました。

特別ねぶたに 10万円を支援

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、2020年の「青森ねぶた祭」は、中止されました。仕事を失った「ねぶた師」を支援するため、青



特別ねぶた
イメージ図

森観光コンベンション協会は、14人のねぶた師で1台のねぶたを制作する「特別ねぶた」を企画、資金をクラウド

ファンディング（不特定多数の人が通常インターネット経由で財源の提供や協力などを行う仕組み）で募集しました。

当町会連合会にも支援の要請があり、10万円を提供しました。なお、特別ねぶたの完成、お披露目は12月下旬、ワ・ラッセで予定されています。

市町連の新任町会長研修会が9月7日、アピオあおりで開かれました。

「先輩町会長からのアドバイス」と題して、幸畑団地西町会の安田 誠町会長が講話しました。要旨は以下のとおり。

助成制度の活用を

幸畑団地西町会は今年で創立50年。私は今年で町会長8年目で、去年で退任するつもりだったが、50周年の節目でけりをつけないとだめだろうと、もう1期やることにした。

現在町会員は385世帯。

役員は15人、顧問2人、会計2人を除くと実質11人。女性5人。部会はなく、回覧板で集まった人で何でもやるということにしている。

予算規模は220万円くらい。助成金の割合は20%。助成金はもらえるものは何でももらうということにしている。ただし、使わせてもらう代わりに、それだけの実績は残さなければならない。助成制度はいろいろあるので積極的に活

用することをおすすめする。

町会長になって、最も気をつけていることは、お金の管理。町会費が3600円、これは預かったお金であると、助成金はすべて税金だと、大事に使わなければならないという思いでやっている。

透明な会計処理を 新任町会長へアドバイス

安田幸畑団地西町会長



会計は100%透明である。全部お見せしますということにしている。会計ソフトを使っているのも、正確である。領収書も内訳があるものももらっている。

飲食には参加料

役員会は毎月1回必ず開き情報を共有する。必要なもの

は毎戸に回覧している。回覧の話をする、町会はアナログ社会。回覧も二世帯住宅だと高齢者が見ないうちに回ってしまい、町会活動に一番出てくる高齢者に情報が伝わらないことがある。

もう一つ気をつけているのは、役員会で飲食はしないこと。いらない詮索を招かないようにしている。町会行事で飲食する場合は、必ず1千円、2千円という形で参加料をもらうことにしている。

後継者の育成を

資源物の回収は、非常によい事業である。年間30万円くらいになる。年度末に各世帯にごみ袋20枚ずつ配付し、残った分は町会の費用に充てている。

是非皆さん、次誰にバトンタッチするかを今から考えてください。後継者育成に力を入れていただければ、各町会の活動がまだまだ続いていくものと思う。

西部第三区連合町会が受賞 市交通安全功労者表彰

青森市交通安全対策協は9月18日に、交通安全功労者表彰式を、ラ・プラス青い森で開きました。「長年にわたり交通安全のために献身的な尽力をした個人・団体」の部で、西部第三区連合町会（野呂龍一会長）が、表彰されました。

同町会は、平成26年から6年連続で、交通事故撲滅決起



野呂龍一会長
大会を開催し、地区内パレードを行い、交通安全運動を行っています。また、令和元年は、連合町会の各町会のほか、古川中学校吹奏楽部、教職員、PTAの保護者ら計160人が参加、古川



中学校から県道浪館通りの往復2kmをパレードしました。これらの地道な活動が、高い評価を受けての受彰となりました。

西部第三区連合町会の安全パレード

おめでとうございます

消防功勞で叙勲

秋の叙勲で和田裕行・安方町会長が瑞宝単光章を受章しました。和田氏は元青森市青森消防団副団長を務め、消防功勞での受章となりました。



和田裕行
安方町会長

青森市表彰

10月15日、同賞の授賞式がホテル青森で開かれ、長年(15年間)町会長として市政に協力し、地方自治の振興発展に貢献された功績に対し、以下の5氏に



宮越 繁
新城青葉台町会長



土岐鎮雄
西平岡町会長



坪 清美
松森団地町会長



伊藤博夫
妙見第二町会長



種市 勲
中奥野町会長
小野寺市長から表彰状が手渡されました。

松原町会(新岡壯太郎会長・1030戸)は町会創立80周年を迎え、多彩な記念事業を展開しました。松原公園に東屋を建設、防災用ベンチを設置し、9月6日に、青森市へ寄贈しました。

また、10月9日から11日まで、大文化祭と銘打ち、中央市民センターで「よみがえれ・昔懐かし写真展」「青森・松原歴史写真展」の展示。ア

多彩に記念事業 松原町会80周年



浦町中合唱部による合唱

トラクションでは、塩屋彰宏氏の指笛演奏や、三遊亭大楽氏の落語、浦町中学校合唱部

と、青森山田高校ブラスバンド部の演奏などが行われ、楽しいひと時を過ごしました。



来場者に説明する張山喜隆さん
(幸畑団地地区まちづくり協議会運営委員長)

青大祭に出展 幸畑団地まちづくり協

幸畑団地連合町会が主体となっている幸畑団地地区まちづくり協議会(大川久志会長)は、発足当初から青森大学と密接に連携しており、相互のイベントに参加し合っています。

「空き家活用プロジェクト」

では青森大学社会学の学生が実態調査を実施しており、幸畑ねぶたの運行なども、共同で実施しています。

青大祭は10月3日、4日と開催されましたが、今年も幸畑団地地区まちづくり協議会が一つのブースを確保し「幸畑ヒルズ文化祭」を開催しました。

会場では「まちづくり協議会の歩み」のパネル展示や、町会員による水彩画や写真、ちぎり絵などを展示。ほかにも、子どもたちのために鉄道模型などを出展して、訪れた親子に喜ばれていました。

編集後記

コロナ禍で町連の行事がほとんど中止になる中での、困難な「たより」づくりとなりました。今号では文字を大きくし、写真も多く入れて、読みやすくしてみました。

先輩町会長の新任町会長へのアドバイスは初めての試みでした。次号では、アドバイスを受けた新任町会長のお話も掲載できればと思っています。

また、単位町会の活動を紹介したいと思います。情報提供を期待しております。(S)